

◆◆センターからのお知らせ◆◆

**林典子写真展「HIV/無音の世界に生きる：ボンヘイのストーリー（カンボジア）」**

母子感染でHIVに感染し、生まれつき耳が聞こえず言葉が話せないカンボジア人少年ボンヘイ君とその家族（母、祖母）の姿を追った写真家・林典子さんの写真作品18点を展示する催しが横浜市内で巡回展として開かれました。この写真展は、2010年4月に母がエイズで亡くなる前の3人家族の生活と、その後に残されたボンヘイ君と祖母2人の暮らしを伝えるものです。

\*林典子さんについては⇒ URL <http://norikohayashi.jp/> ^!



＜港北区の写真展のようす＞  
世界AIDSデーイベントで  
（港北区役所）

写真には、貧しい暮らしのなか、障害を抱えながら生きているボンヘイ君の厳しい現実について、写真を通して多くの人に知ってもらいたいという祖母のメッセージがこめられています。林典子さんはDAYS国際フォトジャーナリズム大賞2012を日本人として初めて受賞されました。昨年8月横浜で開催された第19回AIDS文化フォーラムin横浜を機会に、林さんのご厚意でこれらの作品パネル18点一式が横浜AIDS市民活動センターに寄贈されました。横浜市内在住者（所在教育機関、所在団体）に貸出を行っています。学校の授業やイベントに積極的にご利用ください。

**【お知らせ】**

林典子写真展「HIV/無音の世界に生きる：ボンヘイのストーリー（カンボジア）」

開催日時：2013年3月20日（水・祝）

開催場所：横浜中央YMCA

（JR京浜東北・根岸線 関内駅南口下車3分）

\*くわしくはセンターHPでご確認ください。



◆世界エイズデーin Yokohama 2012報告◆

日時：2012年11月24日（土）11：00～17：00

会場：新都市プラザ

神奈川県内で活動する5つのNGO・NPOといっしょに、世界エイズデーにあわせた街頭キャンペーンを行いました！

レッドリボンづくり、HIV・エイズ基礎知識クイズ、活動発表などを行い、多くの市民の方にご参加いただきました。



おーぶん

URL <http://www.yaic.gr.jp/>

発行：横浜AIDS市民活動センター  
（運営 公益財団法人横浜YMCA）  
〒231-0015 横浜市中区尾上町3丁目39番地  
尾上町ビル9F  
TEL:045-650-5421/FAX:045-650-5422  
E-mail:info@yaic.gr.jp  
平日：13:00～20:00/土・日・祝：10:00～17:00  
休館日：火曜  
監修：横浜市健康福祉局

特集 HIV・エイズボランティア活動って

どんなこと？ くわしくは中面へ！！

～冬のエイズイベント報告～

HIV・エイズの基礎知識や性について学べる2つの講座を開催しました。

●HIV・エイズってなに？～基礎知識から、性・生・人とのつながりまで～●

日時：2012年12月15日（土）14：00～16：00 講師：山田雅子さん（看護師、看護学校教員）  
HIV・エイズについての基礎知識のわかりやすい解説、心が通いあう関係性について考えるワークショップを中心に行われました。人と人との関係性のなかでお互いの健康や気持ちを想像することが大切だと話されました。

《参加者の感想》

—講座形式にとどまらず、座談会のようにリラックスして参加できた。  
—講師としての、生徒との接し方についてとても参考になった。想像力が大事だと思った。



山田雅子さん

●大人から子どもたちへ伝えたい～性と心と体のこと～●

日時：2013年1月11日（金）13：30～15：00

講師：やまがたてるえさん（助産師・バースセラピスト）

大人が性についての正しい情報を知り、命をつなぐ性について話すことを恥ずかしいと思わないこと。そして、乳幼児期から高校生までの成長の段階に応じて、人生を生きるために必要な「ライフスキル教育」として、性の知識（体の変化、感染予防、検診など）や「あなたのことが大切だ」と伝えていくことが重要だと話されました。

《参加者の感想》

—性教育＝避妊、妊娠・出産をネガティブにとらえられていたような受け止め方をしてきた自分自身のことを振り返った。  
—性・生まれてきたことを大切に話していくことが、その子どもの自尊感情に関わることを知ってとても参考になった。



やまがたてるえさん

# ☆HIV・エイズボランティア活動ってどんなこと？☆

## ★★★ピア・エデュケーションをする★★★

はな  
大島華奈さんは法学部で政治学を学ぶ大学生1年生です。高校生活を送るなかで「自分たち10代の若者には、どういった性の話が必要か」について意識するようになり、ピア・エデュケーション（同年代の仲間同士で教え、学び合うこと）を始めました。現在は周囲の大学生との会話を中心に、講演活動や発表も行っています。大島さんにお話を聞きました。

### ◆ ピア・エデュケーションを始めようと思ったきっかけは？

——高校1年のときにエイズ孤児のボランティア活動を通じてHIV・エイズについて関心をもつようになり、調べたら日本でも感染が広がっていることを知りました。高校では保健体育の授業で性教育についてのビデオを1度見ただけなのに、周囲の友達は性的接触をする人たちがいたので、性についての正しい知識を知らなくて大丈夫かなと感じました。

私は海外に住んでいたことがあるので、海外の友達ともよく話をするのですが、性感染症やコンドームの正しい付けかたなどの話題も出てきたときに、自分が性についてほとんど知らないことについて改めて思い知らされました。そして、千葉大学医学部附属病院感染症管理治療部・部長の佐藤武幸先生から性についての正しい知識を指導していただいたりして、勉強をしたことを周囲の友人に話すようになりました。



大島華奈さん

#### <<豆知識>>

##### ①HIV・エイズとは

エイズはHIVというウイルスに感染することによって起きる病気です。HIVウイルスに感染すると、だんだんと病気に対する抵抗力が下がり、さまざまな病気にかかりやすくなります。そして普段からかからないような病気を発症することをエイズ発症といいます。

##### ②性感染症とは

性的接触によって感染する病気。性器クラミジア感染症、りん菌感染症、HIV・エイズなどがあります。予防には、性的接触をしないこと、性的接触のときはコンドームを正しく使うこと、そして正しい知識をもつことが大切です。



### ◆ ピア・エデュケーションがなぜいいと思ったの？

——同世代から同世代へ、仲間から仲間へ……身近に感じられることや同じ目線で伝えられることがいい点ですね。大学の学食で話をしていると、最初は女の子の友達だけだったけれど、徐々に男子も相談などに来てくれるようになりました。そういうときには、プライバシーを守るために一人ひとりと対話をするように心がけています。

ピアって若い人の活動というイメージもあるみたいですが、そんなことはないです。いろんな世代がピア活動をできると思いますよ^^



2012年8月・第19回AIDS文化フォーラムin横浜での発表のようす

## ★★★海外でのボランティア活動に参加する★★★

「ハッピーホーム」は、タイにあるエイズ孤児ケアセンターです。横浜YMCAがタイ・バンコクYMCAと協力してこの施設を支援しています。毎年8月には「国際ボランティア in タイ」というツアーが開催され、日本から高校生・大学生などの参加者が、このセンターを訪れています。第19回のツアー報告をもとにその活動をレポートします。

### ◆ ハッピーホームってどんなところ？

——親をエイズでなくした孤児を保護する施設です。中高生6人、小学生18人、保育園児2人の計26人（2012年8月現在）の子どもが共同生活しています。彼らのなかには、母子感染によってHIVに感染している子どももいます。また、施設の外で生活する約50人の子どもたちにも支援をしています。



#### <<豆知識>>

##### ①HIVの主な感染経路

- ・性的接触
- ・血液を介して（注射器具の共有など）
- ・感染した母親から赤ちゃんへ（母子感染）

⇒母親が感染を早く発見し適切な治療を受ければ、赤ちゃんへ感染する可能性を極めて低くすることができます。

##### ②タイの感染状況は？

2011年、HIV陽性者は49万人。エイズ発症によって片親もしくは両親をなくした、エイズ孤児は25万人と報告されています。（UNAIDS HP、HIV・エイズ推計値より）

### ◆ ボランティア活動でなにをしたの？

——勉強会では、ハッピーホームの歴史や目的・活動内容について、さらにタイのHIV・エイズの現状とエイズ孤児をとりまく社会の状況と支援体制について学びました。また、子どもたちが通っている小学校を訪問もしました。

古くなったテーブルの修復や池作りなどをして、子どもたちが安全な環境で生活できるように協力しました。

最後の晩には、交流パーティがあり、お互いの国や文化を理解する機会となりました。

サワティー！  
(タイ語で「こんにちは」)



### ◆ 参加者の感想は？

——もっと勉強をして、知識をつけて問題について「無知」であるということにならないようにしたい。(高校生)

——ボランティアに参加して、見て学んだからこそ、人身売買やHIV・エイズなどによって、あのキラキラした子どもたちの笑顔を決して奪ってはいけないと思いました。(大学生)

(『横浜YMCA 第19回国際ボランティアinタイ報告書』より)



\*「国際ボランティア in タイ」ツアーは、毎年8月に10日間の日程で開催されます。ハッピーホームのほかに、人身売買から子どもたちを保護するシェルターなども訪問します。参加資格は高校生以上です。くわしくは、横浜YMCA 国際・地域事業（高村/三宅）  
TEL 045-662-3721  
URL <http://www.yokohamaymca.org/>  
E-mail [kokusai@yokohamaymca.org](mailto:kokusai@yokohamaymca.org)

### ◆ 中高生へのメッセージを！

——自分も相手も大切に、コミュニケーションを大切にしてほしいです。

性のことは今、自分にはそういう相手がいないから関係ない考える人もいるかもしれないけれど、いつかこういう話を聞いてよかったと思う日が来ると思うので、真剣にいっしょに考えてみてほしいです！！